

インターネット
放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催
後援：武蔵野市教育委員会



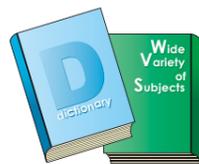
終了のお知らせ

NPO法人全国生涯学習ネットワークは、(公財)東京市町村自治調査会との共催で、インターネット放送を利用した生涯学習講座を行ってきました。第1回は、2004年1月に「脳波による痴呆症の早期発見と予防」武者利光氏でスタートを切りましたが、この度無料の映像ソフトが今後利用できないことが判り、2019年9月の187回目の連続講座を終え、10月31日(木)に「特別記念講座」を開催して終了することとしました。



これまでに、多くの方々から感銘を受ける講義があり、様々な知識をいただきました。また、記念イベントを行い、思い出がたくさん生まれました。なかでも、2013年に開催したイベントは、当時、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の“はやぶさ2”プロジェクトマネージャーであった國中均氏の講演と映画「はやぶさ 遙かなる帰還」の視聴で、500人を超える市民の方にご参加いただき、タイムリーで夢のあるものとなりました。これらの映像は多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で視聴できますのでご利用ください。

15年の長きにわたり、当講座をご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。



特定非営利活動法人

東京雑学大学

2019年11月講義案内

(受講料：会員は無料、会員でない方は1回500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	会場
第1201回	11月7日(木) 14:00から	雅楽早わかり	鈴木 治夫 氏 (元東京芸術大学講師)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第1202回	11月14日(木) 14:00から	老化防止に役立つ “ユーモア川柳”のすすめ	窪 宏太郎 氏 (木柳会会長)	武蔵野市西久保コミュニティセンター (JR三鷹駅北口 徒歩7分)
第1203回	11月21日(木) 14:00から	元伊勢の旅— まことひめ 倭姫様の道程を辿る	花柳 迪薫 氏 (日本舞踏家)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井市商工会館3F)
第1204回	11月28日(木) 14:00から	大人の算術実学講座 ～「重力とは何か、質量とは何か」という 疑問が教えてくれる不思議～	石田 潤 氏 (理学博士)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井市商工会館3F)

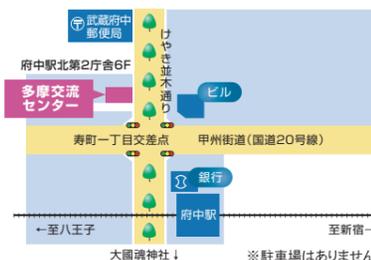
☆申込みは必要ありません。直接会場へお越しください。
[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原)

「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F
TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127
ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



5 億円
1等前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

300 千万円
1等前後賞合わせて3,000万円
1等2,000万円、前後賞各500万円

当せんのチャンス広がる

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上のために
使われます。

インターネットからも
購入できます!

宝くじ公式サイト
<https://www.takarakuji-official.jp/>

9月24日(火) 同時発売
各1枚300円
発売期間 9月24日(火)～10月18日(金)
抽せん日 10月30日(水)

編集後記

- 先日、当調査会が協賛している「愛らんどリーグ2019」を視察してきました(本誌記事2ページ記載)。愛らんどリーグは、島しょ地域の子供たちがサッカーを通じて、お互いの交流を深めるために毎年行われており、非常に意義のある大会となっています。大会当日は好天に恵まれ、優勝目指してチーム一丸となり懸命にボールを追う島の子どもたちと、プレーに一喜一憂しながら必死に応援する関係者の姿に感動しました。
- 大会初日の夜には、子どもたちが自分の住む島の魅力や特徴を紹介する「島じまん発表会」が行われました。自分の島を一生懸命にアピールする姿を目の当たりにして、この子どもたちの中から、島の将来を担っていくリーダーが何人も育っていくものと期待が膨らみました。
- さて、10月に入って暑さも一段落し、いよいよ秋本番となりました。「天高く馬肥ゆる秋」ということわざがあるように、秋は、様々なおいしい食材が旬を迎え楽しめる季節です。
- 旬の食材は、比較的安価で栄養価も高く、その時期に起こりやすい体調不良に効く栄養素を補う効果が期待できると言われています。秋は、寒い冬に向かい、体を温め、滋養豊かで免疫力を高める効果が期待できる、きのこ類や根菜類などが旬を迎えます。こうした旬の食材を消費することを「旬産旬消」と言いますが、「旬産旬消」は、「オール東京62」で取組んでいる地球温暖化対策にも効果があります。
- 栽培技術が発達した昨今は、一年を通し、旬を問わず様々な食材を食べることができますが、旬の食材は、自然の形に近い場所で育てる露地栽培で大量に収穫することができるため、燃料やガス・電気などのエネルギー消費が少なく、二酸化炭素の排出を抑制できるなど、環境への負荷が低い食材と言えます。
- また、よく耳にする「地産地消」も地球温暖化対策に有効です。「地産地消」は、地元で生産された食材を地元で消費するため輸送距離が短いことから、食材の新鮮さが保たれ、かつ輸送により発生する二酸化炭素が少なくなります。「旬産旬消」と「地産地消」を合わせて行うことは、地球温暖化対策により効果的と言えます。
- 「食」は、私たちにとって日々欠かさないものです。「旬産旬消」や「地産地消」の取組は自給率向上や食育にもつながっていくと言われていていますが、しかしながら、私たちの食材のすべてを「旬産旬消」と「地産地消」により賅うことはできません。こうした取組を理解し、自分にあったスタイルで少しずつ実践していくことが、安心・安全で豊かな食生活につながっていくものと考えます。「実りの秋」、「食欲の秋」を迎え、できることから実践していきたいと思います。(K・K)